

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290100237		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム千葉寒川の家 1階		
所在地	千葉県千葉市中央区寒川町1丁目249-2		
自己評価作成日	平成27年8月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成27年9月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の笑顔が引き出せるように全職員が、笑顔を心掛け真心を込めた介護を提供します。個々のペースに合わせたサービス提供を行い、利用者様に寄り添い笑顔あふれる施設になるように努めていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度館長の交代があり、新たな体制の下、利用者の方には家にいる時と同じ感じで楽しく過ごして頂くをテーマに、利用者の笑顔を引き出せるように全職員が笑顔が心かけ真心込めたサービスの提供に向け取り組んでいる。特に今年度は、利用者への対応について再度見直し、利用者への声かけが適切か、利用者本位のサービス提供ができていないか等、毎月の全体での職員会議や内部研修を通して、職員一人ひとりの力量が高まるように努めている。今後に向けては、ホーム内外での事故をより減少させていく事や家族との連携強化に取り組む姿勢が確認できた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	政本グループの理念・運営目標に添うようにサービスを提供している。毎週、朝礼を実施して全職員に周知している。	法人本部で週に一度実施している朝礼の議事録がホームにも配信され、朝礼の議事内容の確認と共に、議事録内に記載されている法人理念についても全職員が確認できるようにしている。	今後は、法人の理念に基づきホーム独自の目標や理念を設定し、ホームとして目指すべき方向を職員全体で共有できると良いであろう。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民とも挨拶をかわし地域交流を心がけている。町内会の行事にも積極的に参加している。	地域との交流においては、近所の方とあいさつを交わすほか、町会への加入のほか、町会のお祭りに利用者と一緒に参加し、地域住民と交流が深まるように努めている。地域情報については回覧板において収集する事ができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症やホームの状況について説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議により発案された事柄や意見等は迅速に対応し、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に一度定期的を実施している。会議には地域包括支援センター、民生委員、町会前会長、市役所職員の方が参加し、現状の報告のほか、地域の様々な情報提供を受ける等、有益な会議になるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	変更届け等の書類を提出する際は、直接伺い現状等の報告を行っている。	運営上の疑問点等が発生した際には、区の担当課に連絡を入れ、指示を仰いだり、届け出が必要な書類がある際には、直接伺う等、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修にて理解を深めている。玄関を含めドアは5つあり、2つのドアは解放しており中庭へ自由に出られるようになっている。	平成27年3月25日に「身体拘束について」の研修を内部で実施し、不適切な対応につながらないように取り組んでいる。現状玄関の施錠も含め、身体拘束につながる事例にならないように取り組んでいる。	現在居室等においてセンサーを使用している利用者に対し、今後はケアプランにも使用している旨を明記し、家族に説明、同意のほか使用終了に向けた目標がより明確になると良いであろう。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて理解を深めている。		

グループホーム千葉寒川の家(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用されている方はいるが、制度の詳細なところまでの理解が不足しており活用できていない部分がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	訪問や面会等で利用者・ご家族に十分な説明を行い、理解・納得して頂けるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	最近の様子などを面会時または電話でお伝えしている。意見は直ぐに反映できるように取り組んでいる。	家族からの意見に関しては、面会時に直接伺うほか、利用者本人からの意見は日常会話から収集している。特に利用者からの要望等に関しては、レクリエーション活動につなげる等、反映できるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回、職員会議を行い意見や提案をもとによりよい事業所となるよう努めている。	職員からの意見や提案に関しては、ユニット会議や全体の職員会議時に収集している。また館長が個別に職員からの意見を聞く機会も作り、サービス向上につなげていけるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に従い、個々の状況を把握して職場環境・条件の整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を通して、個々の能力に応じた技術・知識の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修を通じて、交流の機会を作り取り組んでいる。		

グループホーム千葉寒川の家(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化に伴い、不安が強いと思うので傾聴したりコミュニケーションを図り、不安が和らぐようにするための関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望に耳を傾けて、何でも話せるような関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントや本人・家族の要望を基に必要な支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き、草取り、水まき、洗濯物たたみなど出来ることは手伝っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話連絡で日々の様子を伝え、情報を共有したり相談に乗って頂いたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族以外の方の面会は少ないように思う。縁ある場所を訪れる機会はあまりなく不十分であり、そのような支援が提供できる機会を持つ必要がある。	馴染みの人や場所との関係継続の支援では、友人の来訪の受け入れ、家族対応で馴染みの理髪店に通う事ができるように取り組む等、関係性の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立せず関わり合えるように職員が間に入り支援している。		

グループホーム千葉寒川の家(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去しても、電話連絡を頂いたときには相談に乗り出来る限り対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向・意思を尊重し、サービスに反映出来るよう努めている。	利用者の思いや意向に関しては、日常会話からの聞き取りのほか、ケアプラン作成時のアセスメントにおいて、利用者の現状や課題を収集し、利用者の意向をケアプランに反映し、意向に沿った支援が図れるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書や面談をもとに生活歴や暮らし方等の情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察し、その日の状態に応じた対応を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員の意見をもとに本人の現在の状態を考え介護計画を作成している。	アセスメントにおいて利用者の現状や課題を抽出し、担当者会議において職員の意見を収集し、総合的な意見を踏まえケアプランを作成している。ケアプランに掲げた目標は3ヶ月毎モニタリングを行い、達成状況を確認している。	ケアプランに明記している目標期間が日にちまで明確になると良いであろう。また、サービス内容の実施期間と短期目標期間の整合性が図られることにも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・申し送り等で情報を共有したり、毎月ユニット毎に会議を行い、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況やニーズに対して、柔軟に考え支援するよう努めている。		

グループホーム千葉寒川の家(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事等には出来る限り参加するようにしている。散歩時には地域住民とも挨拶を交わし地域との交流作りを心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療があり、月2回往診を受けている。体調不良のときには、訪問医がその都度対応してくれている。	ホーム提携先クリニックの訪問診療の受け入れのほか、月に4回看護師を受け入れている。体調不良の際にはその都度往診が受けられる体制であるほか、必要に応じ通院し適切な医療が受けられる体制を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況を伝えて相談し、適切な往診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、面会や電話連絡で状況報告を受けている。入院・退院時は往診医と連携し対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでは医療サービスの提供は、困難な面があるが、出来る限り本人・家族の要望に応えられるよう支援していきたい。	重度化した場合や終末期のあり方については、利用契約の際に「医療連携体制加算についての同意書」を交わし、看取りに関する指針や重度化した場合における対応について説明している。利用中重度化が進む際には、主治医、家族と今後の方針を検討することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行っているが不十分であるため、初級救命等の外部講習に参加してもらい実践力を身に付けられるよう取り組んでいきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災・避難訓練を行っている。今後も定期的に訓練を行い全職員が災害時に対応できる体制を整えていきたい。	平成27年8月に火災を想定した避難訓練を実施している。夜間を想定した訓練は今後実施予定としている。定期的に訓練を行い、全利用者が安全に避難できる方法を習得できるように努めている。	災害に備え、備蓄品の確保、ホーム周辺の水害状況についても把握できると良いであろう。また、ホーム内の通報装置の使用についても全職員が正しく使用できるよう再度確認出来るとう良いであろう。

グループホーム千葉寒川の家(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々との関係で馴れ合いになって言葉が不適切なことがある。個々の人格を尊重した声掛けを意識した対応を心掛けたい。	利用者に対して不適切な対応にならないように、平成27年7月29日に「接遇」研修を内部で実施して言うほか、声かけや対応についても日常的に注意を払い、不適切な対応につながらないように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のコミュニケーションを図る中で、会話の中から思いや希望を引き出すよう働きかけている。また自己決定ができるよう本人の意思を尊重することを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに添った支援を心掛けている。散歩や買い物などは随時対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の身だしなみは本人に確認しながら衣装を決めている。ホーム内での身だしなみに関しても職員一人ひとりが気を配り支援するように心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きなどの片付けは女性を中心に手伝って頂いている。一月に一回は外食の機会を設け食事を楽しんで頂いている。	食事の準備に関しては、食材が業者から届く形式を取り、職員が中心に食事の準備や後片付けを行っているが、利用者にも極力関わって頂けるように努めている。食事を楽しむ工夫では、利用者にメニューを選んで頂き、宅配の食事を行う等の取り組みもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量、水分の提供を行っている。個人や家族が購入したものを提供したり、食事形態等ホームで出来る範囲で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕に口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。昼食前には、口腔体操を実施している。		

グループホーム千葉寒川の家(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄のパターンを把握し、トイレ誘導等の支援を行っている。	利用者個々の排泄状況は「排尿排便チェック表」に記録し職員間で共有している。日中に関しては、定時の声かけや誘導によりトイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用いて、排便管理を行っている。往診医と連携し便秘の予防と早期対応に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週三回入浴できるように支援している。曜日や時間帯を決めているが個々に合わせたペースで入浴できるように支援している。	入浴に関しては週に3回入浴できるように支援している。入浴日は男女交互に設定し、利用者個々のペースや体調を配慮し、心身共にリラックスできる環境を作り、ゆっくりと安全に入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況やペースに応じて、休息したり安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りを行い、薬の増減や内容変更等の情報を共有し症状等の確認把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の食器拭き等の役割を持っている方もいれば、役割が特にない方もいるので生活歴や性格を合わせて考え、充実した張りのある日々を過ごせるよう支援していきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外食や季節ごとの外出レクなどを行っている。天気の良い日には、近隣を散歩し地域の人たちと交流を図っている。	天候の良い日にはホーム周辺の散歩に出かける事ができるように支援するほか、近所の商店やショッピングセンターへの買い物、お花見や公園への外出等も計画し、戸外に出かける事ができるように支援している。	

グループホーム千葉寒川の家(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理されている方もおり、本人の希望に応じて買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時にホームの電話を使用されたり、外へ電話を掛けに行けるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるように季節に応じた、装飾を施したり、室内の温度等には配慮し調整している。	リビングには、利用者が描いた作品や行事の写真を掲示しているほか、季節に合わせた装飾を作成し季節感が感じられるように配慮している。温度や湿度にも配慮し、利用者が居心地良く過ごせるように取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースであるリビングでは、個々のペースでゆったりと過ごせる空間になっている。庭に椅子を設置して天気の良い日には、日光浴が出来るようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や使い慣れたものを置いて、個々に合わせた過ごしやすい環境を整えている。	居室内には、家族の写真や仏壇を置く等、本人や家族と相談し、ご自身の部屋として居心地良く過ごせるように配慮している。居室内の掃除も日々行い、衛生面にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路には物を置かないようにし、トイレ内は電気を付けた状態にして安全に出入り出来るようにしている。		